

**主題：「神の宮である召会（神の永遠のエコノミーの目標）」
の内在的な意義**

メッセージ 4

宮を建造する者——ダビデとソロモンとヒラム

聖書：マタイ 12:3-4, 42. 列王上 7:13-14. ペリピ 3:10. エペソ 4:11-12, 16. 3:12, 21, 22. 21:22

- I. ダビデとソロモンは、神の建造のための二つの面におけるキリストを予表します：**
- A. ダビデは、キリストの肉体と成ることから、彼の神・人の生活、苦難、彼の死（飼葉桶から十字架）までのキリストを予表します——マタイ 12:3-4. 22:41-46。
 - B. ソロモンは、キリストの復活において、栄光の中で命を与える霊としてわたしたちの中におられる（彼が御座に着き、彼が再臨して地上で彼の王国を支配することを含む）キリストを予表します。彼は知恵の言葉を語り、神の宮としての召会を建造します—— 12:42. 歴代下 1:10. I コリント 1:24, 30. 12:8。
 - C. ダビデは若い頃から苦難を受けました。しかし彼の苦難を通して、彼は宮を建造するための材料を用意し、正当な立場を得て、建造する者であるソロモンとすべての助け手を用意しました——歴代上 21:18-30. 歴代下 3:1. 歴代上 28:9-11, 20-21。
 - D. ダビデが神の宮を建造するために豊富な材料を用意したことは、キリストが神の召会の建造のために彼の計り知れない豊富を与えることを予表します—— 18:7-11. 22:2-5, 14-16 前半. 28:2, 29:2-9. 参照、エペソ 3:8-10。
 - E. ダビデが彼の患難において（歴代上 22:1, 14）、彼の試練において、彼の戦って勝利することにおいて用意されたことは、神の試練において、また神がサタンと彼の暗やみの勢力と敵対して戦う生活において、神の召会を建造するためのキリストの豊かな備えを予表します（マタイ 4:4, 7, 10. 12:28）。
 - F. ダビデに与えられた宮の様式は、「霊によって彼が持っていたすべての様式」（歴代上 28:12）でした。「このすべて、様式の詳細すべてを、わたしの上でエホバの御手によって書かれた物で、彼は明らかにしておられる」（19 節. 参照、II コリント 3:3）。ソロモンによって建造された宮はこの様式にしがっていました（歴代上 28:11）。
 - G. ダビデが神の宮に関して、イスラエル人の神への奉仕を秩序正しく案配することは（歴代上 6:31-48. 第 23 章—第 26 章）、その霊が新約における召会の奉仕を秩序正しく案配することと（I コリント 12:4-27）、からだのかしらとしてのキリストが、彼のすべての肢体が守るための、からだにおける秩序を定めることを予表します（28-30 節. 14:40）。
 - H. 召会の青写真、復活のその霊、すなわち、すべてを含む、命を与える、複合の、内住するその霊です。わたしたちがわたしたちの霊の中で復活のその霊の中に住むとき、ダビデの設計にしがってソロモンが宮を建造したことの実際（キリストの神・人の生活、死、復活のすべての成分を伴う）は、わたしたちの中で成就されます——ヨハネ 2:19. ペリピ 1:19. エペソ 1:17. 2:22. 3:5, 16. 4:23. 5:18. 6:18。

- I. ソロモンの名は「平和」を意味し、どんな騒音もなく、平和における「安息の人」としてのキリストによって召会が建造されることを意味します——歴代上 22:9. 使徒 9:31. エペソ 4:29-32。
1. 宮の建造のために用いられたすべての石は、原則において、すでに山で切られ、仕上げられていました。ですから、槌も斧もどの鉄の道具も音が聞こえず、宮は静かに建造されました——列王上 5:15-18. 6:7。
 2. もし主によって対処されていない兄弟が長老になるなら、召会は槌と斧と鉄の道具の「騒音」で満たされるでしょう。「騒音」とは、ある聖徒たちが互いの祈りを打ち消すために祈ることによって、互いに戦うことです。
 3. 召会生活において、わたしたちは他の人たちの批判、裁くこと、反対を聞くなら、至聖所の中に退く、すなわち、わたしたちの霊の中に退却し、戻るべきです——ガラテヤ 6:17-18. イザヤ 30:15 前半. マタイ 11:28-30。
 4. 箱が納められた後、ダビデがエホバの家の歌の奉仕に立てた人々は、ソロモンがエルサレムにエホバの家を建造するまで、集会の天幕の幕屋の前で歌をもって仕えました——歴代上 6:31-32。
- J. ダビデが神の民に命じたのは、今日、わたしたちが彼の御声を聞くなら、心をかたくなにしてはならず、むしろ神の言にわたしたちの霊から魂を切り離していただくなければならないということです。それは、わたしたちが良き地、安息日の安息としてのすべてを含むキリストの中に入り、神の家を建造するためです——ヘブル 4:7-13。
- K. わたしたちは、「王の仕事のために、王と共にそこに住」み、彼を十字架につけられ、復活したキリストとして享受して、ご自身をわたしたちの中に造り込み、成就されて神の家としての召会における柱となります——詩歌 904 番. 歴代上 4:23。
- L. 手順を経た三一の神（実際の、さらに偉大なソロモン）の復活の力と、復活させる、命を与える霊を享受することによって、わたしたちはキリストの苦難と彼の神・人の生活の交わりにあずかり、彼のからだ（実際の、さらに偉大な宮）のために、彼の死（実際の、さらに偉大なダビデとしての）に同形化されます——ピリピ 3:10. ローマ 8:11. マタイ 12:3-4, 42. ヨハネ 2:19-22。
- II. 神を愛し追い求める者として、ダビデはキリストを予表しただけでなく、神の熟慮によって彼自身の世代に仕えました。これは、宮の召会生活のために、わたしたちが神によって得られ、神と交わりを持ち、神によって支配されなければならないことを示しています——サムエル記上第16章——第17章. 使徒 13:36前半. ピリピ 3:12. 1ヨハネ 1:3. ローマ 5:17. マタイ 1:1:
- A. ダビデは、神の宮を建造する機会を持ち、その必要を見て、それを行なう能力があったにもかかわらず、神の言葉が彼に臨んだ時、とどまりました。彼がとどまることは、宇宙に二重の証しを確立しました。すなわち、第一に、この宇宙におけるすべての働きは、人から来るのではなく、神から来るべきであるということと、第二に、すべての事柄は、神が人のために行なうことであって、人が神のために行なうことではないということです——サムエル下 7:18, 25, 27. 歴代上 22:7-19。
 - B. 詩篇第 16 篇——「ダビデのミクタム [金の宝石 (詩)]」は、神の願いを満たし、

彼の大きい喜びを成就する神・人としてのキリストを啓示しています——参照、エペソ 2:10。

- C. 詩篇第 22 篇——「ダビデの詩篇」、すなわち、「夜明けの雌鹿に合わせて」は、贖いの死と召会を生み出す復活におけるキリストを啓示しています。
- D. 詩篇第 132 篇——「上りの歌」は、箱の安息する場所としての宮に対するダビデの願いを啓示します。これは召会生活、すなわち、宮の召会生活の頂点を表徴します。ここで、勝利者たちは神と共に安息し、神の中に住み (14 節)、キリストを、彼らの満足のための食物 (15 節)、栄光の衣服 (16 節)、勝利の角 (17 節)、照らすともし火 (17 節)、輝く冠 (18 節) として享受します。
- E. ダビデは神の心にかなう人であったので、彼の失敗でさえ、遠くまで届く神のあわれみと愛の心を展覧する道を神に与えました (サムエル上 13:14. サムエル下 6:3-9. 民 4:15. 7:9)。宮を建造する者と宮の敷地の両方とも、罪から赦されたダビデの存在と、神がダビデのために行なったことから出て来ました——サムエル下 12:24-25. 24:1-10, 18-25. 歴代上 21:18. 歴代下 3:1. 詩 51:1-2, 10-12, 17-18。

Ⅲ. ヒラムは成就され、成就する聖徒たちを予表しており、彼らは三一の神の中の柱であり、柱を建造する者たちであり、真理の柱である召会を建造するためです——列王上 7:13, 21. 啓 3:12. 21:22. エペソ 4:11-12, 16. 1 テモテ 3:15 :

- A. ヒラムはツロからエルサレムのソロモン王へと連れて来られました (列王上 7:13-14)、その場所には召会で予表される宮が建造されました (マタイ 12:42)。
- B. ヒラムの母はダンの娘たちのうちの一人の女でした——歴代下 2:14 :
 - 1. ダンは偶像礼拝の部族であり、神の民をつまずかせ、神の道から墮落させました——創 49:17. 土 18:31。
 - 2. ヒラムの母がダンに属したという事実は、ヒラムの源が、すべての人のように罪に属していることを示しています——詩 51:5. 参照、ヨハネ 8:44 前半. ローマ 7:18。
- C. ヒラムの父はツロ人でした——列王上 7:14 :
 - 1. ツロは商業で有名な異邦人の町でした。それゆえ、それはサタンと一でした——エゼキエル 28:12, 16。
 - 2. ヒラムの父は、青銅を扱うヒラムの工匠の技能の源でした。
- D. ヒラムはナフタリの部族の一人になりました——列王上 7:14 :
 - 1. ナフタリは復活の部族であり、造り変えの部族です——「ナフタリは放たれた雌鹿で、美しい言葉を語る」——創 49:21 :
 - a. 雌鹿は復活したキリストの中で生きている人を表徴しており、絶望的な状況のただ中で、神を信頼し、神の中で喜んでいきます——Ⅱコリント 1:8-9. 詩 22 章の題。
 - b. 神を信頼する人たちは復活の力の中で山を飛び越え、丘を跳ねるキリストと一であり、すべての困難と障害に勝利します——ハバクク 3:19. 雅歌 2:8-9. 8:14。
 - 2. ナフタリは美しい言葉を語ります。その言葉は、命の言葉(使徒 5:20)、恵みの言(14:3)、救いの言(13:26)、知恵の言(Ⅰコリント 12:8)、建造の言葉(使徒 20:32)を表徴しています。

3. 神の建造の一部となり、その建造の働きのあずかるために、わたしたちは、「ツロの町」から断ち切られ、「ダンの部族」から「ナフタリの部族」へと移される必要があります。それは、キリストの復活の中で再生され、造り変えられることによります——Ⅰペテロ 1:3. Ⅰコリント 15:45 後半. Ⅱコリント 3:18。
- E. ヒラムの父は死に、彼のダン人の母はやもめとなりました——列王上 7:14 :
1. これは、神にとって役立つ者となり、召会、すなわち、神の住まいを建造するためには、わたしたちがこの世に関する学びと技能を身につける必要があるということと、わたしたちの「ツロ人」の父、すなわち、これらの事柄の源が死ななければならないということを表徴しています。
 2. さらに、わたしたちの存在の源を表徴する「ダン人」の母は、「やもめ」となって、この世の源から分離されなければなりません。わたしたちは「ナフタリの部族」、すなわち、造り変えの部族に属さなければなりません——ガラテヤ 2:20。
 3. それゆえ、わたしたちは、断ち切られた源を持たずに、学びと技能を所有し続けます。わたしたちの存在（母）は、もはやこの世の源とは結びついておらず、わたしたちは復活の中にいます——列王下 1:10. 使徒 7:22-25. 22:3, 25-28。
 4. 「ツロ人」の父が死ななければならず、ダン人の母が生き続けなければならないということが意味するのは、わたしたちが主に求めて、神の建造に有益な長寿を与えていただくべきであるということです——詩 91:14-16. 92:14. Ⅰコリント 6:18-20. 9:27. 10:31. ピリピ 1:20. ローマ 12:1-2。
 5. わたしたちの「ツロ人」の父がなおも生きているなら、わたしたちは、サタンの世にとどまり、天然の命にとどまっているでしょう。「ツロ人」の技能は、神の宮を建造するのに何の役にも立ちません。わたしたちは、自分の存在、生活、奉仕のあらゆる部分において、自分自身を訓練して、復活の中になければなりません——Ⅰコリント 3:12。
- F. ヒラムがナフタリの部族に移されたことが、奥義的であるのは、あらゆるクリスチャンの歴史の一部が奥義的であるべきことを啓示しています——ヨハネ 3:8。
- G. 主の必要を満たすために、わたしたちはみな主に祈って、言わなければなりません、「主よ、あなたの建造のために、わたしを柱とし、また柱を建造する者としてください」。